

# 2025年度 学校評価報告書

学校名	三田市立富士中学校
-----	-----------

## 1 学校教育目標

「夢や希望をもち、目標に向かってたくましく生きる生徒の育成」  
 真（真実を見抜く力、学力）善（思いやりの心）美（誇り、美しい行動）  
 ～めざす学校像～  
 ◆安全・安心の学校＜学習活動、環境の充実、適切な危機管理＞  
 ◆開かれた学校＜学校・家庭・地域、異校種、関係機関との連携＞  
 ◆あたたかい学校＜迅速・組織的な生徒指導、教育相談の充実、共感的生徒理解＞

## 2 今年度の学校重点目標

- ① 人権尊重の精神に徹し、人の痛みを感じ行動できる生徒を育成する人権教育の推進
- ② 安心・安全な学校づくりをめざした、生徒指導体制と感染症対策の充実
- ③ 学力向上に向けた授業改善の工夫
- ④ 特別支援教育の充実と発展
- ⑤ 学校・家庭、学校園所連携の推進
- ⑥ 学校業務改善（勤務時間の適正化）の推進
- ⑦ 家庭・地域との連携

## 3 総合的な自己評価

中学校区の小・中・特別支援学校でめざす子ども像を共有し、学校教育目標を職員全体で意識した取組を進めてきた。夏季研修会においては中学校区で9年間を見据えた教育活動をテーマに「協働及び交流学习」について共通理解の場を設けた。行事や特別支援学校との交流学习も通常通り行うことができ、想像を超える生徒の活発な姿が見られた。

今年度も人権尊重を目指した教育活動に重点を置き、学校生活のあらゆる場面で人権教育、道徳教育の充実を図り、生徒たちがお互いの良さを認め合えるよう取り組んできた。学習においては評価アンケートの結果から、「授業がわかりやすい」、「学力向上に取り組んでいる」において肯定的な回答が8割から9割と、昨年と同様の結果であり、学校行事や生徒会活動についても肯定的な生徒の意見が多くみられた。しかし、生徒と保護者の回答結果には差がみられるため、次年度は情報発信の機会を工夫して増やすなど、家庭や地域の理解と協力を得られるよう努力したい。そして、家庭・学校・地域の連携のもと学校教育目標の実現を図りたい。

## 4 総合的な学校関係者評価

行事の折や登下校時の生徒たちの様子を見るにつけ、子ども等は概ね落ち着いて学校生活を送っていることが感じられる。教職員も生徒のことをよく考え工夫を凝らした取り組みができています。

核家族化が多くなりそれが当たり前になる風潮があるが、中学校生活3年間で「人を思いやる気持ち」や「年上の方を敬う気持ちを育てる」こと。人権や道徳は大人になって社会に出ると実に大事なことなので現在の取り組みを勉学と共に継続してほしい。

学校側として新たに取り組んでみたいことやチャレンジしたいことがあれば保護者に聴くよいチャンスであるのでアンケートに工夫を入れてはどうか。保護者としては子どもの思っている以上に何かと学校に期待しているのではないかと思う。

## 5 評価結果

自己評価				学校関係者評価
分野・領域	評価項目（取組内容）	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育目標	学校教育目標や重点目標、目指す生徒像・学校像を意識した教育活動が日々実践されているか。	「粘り強く取り組む」「自分や富士中が好き」「楽しく学校に通っている」という項目で昨年度を上回り、8割から9割の肯定意見が生徒に見られ、自己有用感が高い生徒は多い。教職員が重点目標を意識し生徒の頑張りを認める思いを持ち、生徒がいきいきと活動できるよう教育活動を行うことができた。 活発な児童生徒会活動や特別支援学校との交流もあり、教職員の意識の高まりも見られた。	今年度は小中連携のひとつとして、「協働及び交流学习」を取り上げたが、今後も校区の小中特別支援学校で、教育目標やめざす生徒像の方向性を揃え、テーマを持ち、9年間を通して目標や目指す生徒像を意識し生活できるように準備したい。保護者、地域、教職員が一体となって生徒の自尊感情や愛校心を高め、安全で美しい教育環境を維持する努力を行う。	日々の生徒のいきいきとした教育活動が、ひまわり特別支援学校との活発な交流や教職員の意識の高まりにつながっている。 生徒・保護者・教職員の自己肯定感や自尊感情が育まれていると感じる。地域からも目標に向け協力できるように努力したい。 授業参観、学校行事には保護者の関心度が高く、出席率もよい。これからは保護者だけでなく地域住民に対しても様々な行事の参画を促し、開かれた学校をめざしてほしい。
	生徒が学習する場としての教育環境が整っているか。	生徒の回答は昨年度を上回っており、保護者の回答も少し上がった。生徒は主体的に美しい環境を目指し、美化委員会を中心に、意識しながら丁寧な清掃に取り組んでいる。 市の包括的な修繕システムに変わったこともあり、迅速な対応に助けられている。整備に力を注ぎ、まずは危険がないかを第一に取り組めた。 保護者や地域の理解と協力を得ながら、不審者対応を進め、生徒が学校滞在中はすべての門を閉じるなど対策を強化しているが、浸透していないと考えられる。	築35年目を迎え、学校施設の老朽化という課題もあるが、今後も引き続き学校としてできる範囲で修理や整備に力を注いでいく。 次年度も丁寧な日々の清掃への取り組みを生徒会美化委員会主導ですすめたい。ただし、一部の老朽化に対する不安も大きいので教育委員会に対しても改修や施設の更新を依頼し続けていく。	美しい環境を整えようとする前向きな意識と市の環境整備の取り組みがうまくかみ合っている。校舎の大規模改修は早期にお願いしたい。 自分たちの場所は自分たちで清掃しようという取組を毎日の清掃時間を設けることがすばらしい。
教育課程 学習指導	適切な時期と目的により、充実した学校行事を実施できているか。	学校行事や部活動、生徒会活動については、生徒の肯定的な回答が8割を超え、昨年度と同様に高い結果となっている。感染症流行時以前の活動にもどすことができ、生徒の自尊感情や自己有用感を高めることができた。 学校行事や部活動、生徒会活動を活発に行うことを目的に保護者と教職員が協力することで、生徒がいきいきと活躍する場を持つことができたと感じている。	ねらいを定め、振り返りをしっかりと行い、あらゆる面でバランスが取れた活動となるように、工夫し改善していく。 行事の精選のみならず最大限の教育的効果を考えるとともに、熱中症予防など生徒の安全を最優先にしながら、家庭や地域に開かれた行事を目指し、理解と協力を得られるように取り組む。	授業はもちろんのこと、活動や行事に熱心に取り組んでいる学校だと感じる。 オープンスクール等、地域に開かれた学校であると思う。

	<p>「学力向上指導改善プラン」に基づき、授業改善・家庭学習・読書活動・放課後の学力補充・小中連携の充実に取り組んでいるか。</p>	<p>「学校の授業がわかりやすいか」「授業の工夫や学力補充など学力向上に取り組んでいるか」については、生徒は昨年を少し上回る9割弱と肯定的な意見であるが、保護者の意見は5割から6割であるため、改善が必要である。わかりやすい授業や学力向上の取組については、全校生徒を対象に授業評価アンケートを実施し、授業改善に取り組んだ。「自分から発表や宿題、復習をしているか」については生徒・保護者とも一昨年度、昨年度を上回ったものの肯定的な回答は6割弱にとどまっている。教職員の回答からは、わかりやすい授業に取り組む姿勢や発表の頻度が多くなったことは見て取れる。</p> <p>まだまだ読書習慣・意欲は依然として低い傾向がみられるのが課題である。</p>	<p>今後は「学力向上指導改善プラン（授業改善・家庭学習・学力補充・読書・小中連携）」に基づいた取組を学校全体としてさらに充実させ、学校の取組状況を積極的に発信する等、保護者の理解へとつなげていきたい。あわせて発言しやすい授業の雰囲気づくりや声掛け、対話的な学びの工夫に取り組むたい。</p> <p>特に読書については、学校の朝学習の時間を用いるなど工夫し、定期的に読書活動の機会を設けるなど定着を図りたい。</p> <p>家庭学習の手引き(タブレット使用を含む)」を今後も更新し、生徒が目標を持って学習へ取り組めるよう工夫していく。</p>	<p>読書については、図書室を充実させ、楽しく明るい雰囲気の中で、本に親しめるようにしてほしい。予算の制限もあるだろうが、図書のレイアウトなどを工夫するなどして本を手にとってみたくなるような図書室にしてはどうか。</p> <p>「何のために学習するのか」「誰のために勉強するのか」、そのことを今一歩考え、将来目標を掲げる時期にしてほしい。その中での読書習慣であり、活字離れに歯止めをかけてほしい。</p> <p>授業や自宅学習については、試験がある以上テストの点数によって保護者の意見が厳しくなることは仕方がない。委員から見て教師の「わかりやすい授業をする」ことについて、意識や工夫、取り組みはすばらしいと思う。</p>
生徒指導	<p>教育相談の充実により生徒理解に努めるとともに、問題行動の早期発見・早期対応、未然防止に取り組んでいるか。</p>	<p>「生徒一人ひとりに応じた相談や気持ちをよく理解する活動をおこなっているか」では肯定的回答が生徒は8割、保護者は少し上昇し、7割である。</p> <p>月1回の生活アンケートや学期に1回のいじめに関するアンケートだけでなく、日頃から生徒の様子について教職員で情報交換を密に行い対応している。</p> <p>特に学期に1回の教育相談週間においては、生徒の思いに寄り添い、いじめや悩みの早期発見・早期解消に向けて真摯に努めており、安心な学校づくりに向けての成果が見受けられる状況である。</p>	<p>「いじめのない安心な学校づくり」を進めるべく、毎月の生活アンケートや教育相談などを継続し、生徒理解と早期発見・早期対応に一層努める。学校が生徒自ら相談しやすい場になるよう環境を整えていく。</p> <p>また、教職員同士で自己開示と質問を互に行い、チームとして協働体制を構築できるように取り組んでいきたい。</p>	<p>いじめや悩みの早期発見に力を入れ、問題が大きくなる前に取り組んでいる。このような取組みに対して、先生方の引継ぎをお願いしたい。</p> <p>3年生の認知症についての授業を参観し、生徒の皆さんの感想等も読んだが、その真剣さに感動した。思いやり、優しさを感じた。</p>
	<p>「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ問題に迅速かつ組織的に対応できているか。</p>	<p>「学校はいじめや暴力のない安心の学校づくりに取り組んでいるか」については、昨年同様に生徒の肯定的回答は9割を超えている。保護者は7割であるが、昨年度を上回る。</p> <p>「いじめのない学校づくり」のために、毎月の生活アンケートや毎学期の教育相談、生徒指導ミニ研修会などを継続し、更なる生徒理解や生徒支援につなげてきた。生徒の悩みに向き合い、いじめの早期発見・早期対応の取組を継続してきた成果であると考えられる。</p>	<p>年度当初の職員研修とともに、職員会議でミニ研修会を実施したり、教職員間で生徒指導に関する月間目標を設定したりしている。</p> <p>生徒の仲間づくりを進めながら、今後も教職員間で報連相を欠かさず、どんな小さな変化も見逃さないよう心掛ける。</p> <p>日々の相談活動やアンケートを充実させ、いじめ等が疑われる場合にはいじめ対応チームを早期に開催し、情報共有と方針の決定を行い、解決・解消までの対応も含め組織的に取り組んでいく。</p>	<p>登下校中の挨拶、態度はほんとは年々よくなっている。</p> <p>「いじめや暴力のない安心の学校づくり」のために妥協のない努力をお願いしたい。学校の取組みと併せて保護者や関係機関との連携も重要に思う。</p> <p>小さな声を聴く仕組みづくりや取組みができている。保護者との連携も大切であるので今までの取組みを継続してほしい。</p>
家庭・地域との連携	<p>通信やHP、オープンスクールによって家庭や地域に情報を発信し、開かれた学校づくり・信頼される学校づくりができているか。</p>	<p>「学校はわかりやすく情報発信しているか」では、昨年同様に肯定的な回答が多く、生徒は8割、保護者は9割に届いている。</p> <p>学年通信やまなびポケットでの発信も増えた影響か、肯定的に捉える生徒・保護者・教職員の割合が高まっている。しかし、未読の保護者も少なくない課題がある。学校の考えや活動を知っていただくことが教育活動への理解を深める第一歩と捉え、より一層細やかな情報提供を心掛けたい。</p>	<p>昨年度の2学期後半から、まなびポケットの運用を開始し、次年度もできる範囲で配布している通信等をデジタル化して確実に届く形に変更していく。</p> <p>タブレットや学校HPを通じて積極的な情報発信を行い、保護者や地域の理解を得られるよう取り組んでいく。</p>	<p>急なデジタル化やスマホの普及は情報モラル等の心配な面が多い。</p> <p>IT化により、いつ、どこでも閲覧可能になり現在の生活環境に適した結果になっている。</p> <p>個人情報の課題はあるが、もう少し学校ホームページの工夫があればもっと開かれた学校になると思う。</p>

	<p>学校運営へのPTAや地域住民の参画、及び協力を推進しているか。</p>	<p>「生徒は地域行事、ボランティアに参加し自分の住んでいる地域が好きか」については、肯定的意見は生徒が7割、保護者は6割と昨年と同様である。</p> <p>放課後の学力補充、部活動補助、体育大会や文化祭の受付、トライやる・ウィーク指導ボランティアなど、保護者のみならず今年度から学校支援ボランティアの方々に多数、協力をいただいている。</p> <p>また、地域や中学校区の学校園が一体となり、児童会及び生徒会で共通の取り組みを行うなど、子どもたちの交流の場も増え、意識も高まってきている。</p> <p>地域のお祭りなどに生徒が司会や演奏で参加させていただくなど、直接地域の方と触れ合える良い機会を得ることができている。地域の一員としての自覚も高まりつつある。地域にたたかき見守られていることに気づき、感謝の気持ちも高まっているように感じる。</p> <p>部活動の地域移行が始まる令和8年度から、これらの活動を通し、学校と家庭・地域が連携し、生徒たちが富士中生であることに誇りを持ち、地域にさらに愛着をもてるよう今後も取り組みの工夫を続けたい。</p>	<p>今年度より本格的に始まった教科や行事での学校支援ボランティアについて、次年度も引き続きタイムリーな導入を一層行っていく。</p> <p>生徒の地域クリーンデーやその他のボランティア、地域のお祭りへの参加などの機会を設け、地域の一員としての自覚を促していく。</p> <p>地域や保護者と協力して、更に生徒の自己有用感が高まるような取り組みを進めていく。</p> <p>しかし、部活動の地域移行に伴い部活動単位で活動を行っていた行事については検討が必要となる。</p> <p>学校の活動を地域に知っていただくことが、学校教育活動への理解を深める第一歩であることを理解し、より一層細やかな情報発信を心掛けたい。</p> <p>PTAについては、従来のPTA組織から新しい学校支援保護者会の組織を今年度と来年度の2年間をかけて検討し、持続可能な形で運用していきたい。</p>	<p>クリーンデーや祭りの生徒の参加について、地域は大歓迎です。司会や演奏、ブースでの参加も引き続き実施してほしい。</p> <p>放課後の学力補充や各種学校支援ボランティア等、徐々に充実していると実感する。PTA組織から学校支援保護者会へ移行もスムーズにいくと期待する。</p> <p>いろんな催しや活動で生徒と出会う機会があるが、挨拶もよくしてくれるし、明るく前向きな姿勢が感じ取れる。</p> <p>部活が地域移行になることは決定事項であるが、現在の移行期間中の取り組み方には問題、課題が多い。生徒一人一人は一回しかない中学校生活の3年間なので行政含め、大切にしてほしい。</p> <p>部活の地域移行について、三田市には2校の大学がありその学生たちの力を借り、各学校での部活動が今まで通り行われることを願っている。多忙な先生方に変わり大学生が生徒と共に汗を流す。行政サイドからこのような応援策を講じて、近隣の他市でも行われている、このような取り組みを進めていただきたい。</p>
--	--	--	---	---